

センノシド(2354003)

【成分】

1錠中、セノシド[®] A・B 12mg 相当のセノシド[®]

【適応と用法】

便秘症

センノシド A・B(又はそのカルシウム塩)として、1日1回 12～24 mg 就寝前(増減)。高度の便秘には1回 48 mg まで増量できる

【注意事項】

(1)禁忌

(a)本剤又はセンノシド製剤に過敏症の既往歴のある患者

(b)急性腹症が疑われる患者、けいれん性便秘の患者 [ぜん動運動亢進作用により腹痛等の症状を増悪するおそれがある]

(c)重症の硬結便のある患者 [下剤の経口投与では十分な効果が得られず、腹痛等の症状を増悪するおそれがある]

(d)電解質失調(特に低カリウム血症)のある患者には大量投与を避ける [下痢が起こると電解質を喪失し、状態を悪化させるおそれがある]

(2)原則禁忌：妊婦又は妊娠している可能性のある婦人(妊婦、産婦、授乳婦等への投与の項参照)

(3)慎重投与：腹部手術後の患者 [腸管ぜん動運動亢進作用により腹痛等がみられるので、消化管の手術後は特に注意する]

(4)重要な基本的注意：連用による耐性の増大等のため効果が減弱し、薬剤に頼りがちになることがあるので長期連用を避ける

(8)その他の注意：投与により尿が黄褐色又は赤色を呈することがある

(9)室温保存

【副作用】

(5)副作用：総症例 585 例中、何らかの副作用が報告されたのは 109 例(18.6%)で、主な副作用は腹痛(15.6%)、腹鳴(1.2%)、悪心・嘔吐(1.0%)であった(一般臨床試験)

部位別 5%以上 0.1～5%未満 0.1%未満

過敏症(注) 発疹等

消化管 腹痛 悪心・嘔吐、腹鳴

(注)中止し、適切な処置を行う

(6)妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(a)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にだけ使用する [妊娠中の投与に関する安全性は確立していない]。なお、投与した場合、子宮収縮を誘発して流産の危険性があるので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には大量に服用しないよう指導する

(b)授乳中の婦人には、授乳を避けさせることが望ましい [授乳中の婦人にセンノシド製剤を投与した場合、乳児に下痢がみられたとの報告がある]

(7)小児等への投与：未熟児、新生児、乳児に対する安全性は確立していない(使用経験がない)

【長期】

【備考】